

# 2023年10月27日 第3449回例会

情報集会 於： セントラルホテル 4F



<点鐘・開会> 18:00 藤村 会長

<唱 和> 「我等の生業」

<ゲスト紹介> \*公益財団法人 ロータリー米山記念奨学会 事務局長/  
地区ロータリー財団委員会 副委員長 柚木 裕子 様

<賞品授与> \*パズルdeロータリー当選者 杉浦 浩子 会員

<会長報告> \*ガバナー事務所から規定審議会立法案(制定案)投票について

<委員長報告> \*奉仕の基金PJ委員会 加藤(淳)委員長から 審査等についての報告

\*社会奉仕委員会 加藤(淳)副委員長から ポリオ根絶募金活動についてのご報告

\*ローターアクト委員会 臼井委員長から フリーマーケット例会報告

<出席報告> \*出席委員会 加賀本副委員長から10月27日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
119名	102名	59名	43名	6名	63.73%

メイクアップ：小沢会員 地区委員会出席、勝見会員 地区オリエンテーション出席

鈴木(之)、鈴木(孝)両会員 第1G三役会出席

中村(清)会員 地区委員会出席、濱田会員 理事役員会出席

## <ニコニコ報告>

・三 役 地区ロータリー財団委員会副委員長 柚木裕子様、横須賀ロータリークラブへようこそ  
いらっしやいました。よろしくお願ひいたします。

・比 護、大野(豊)、大石、新倉(健)、八 巻、椿、兼 城、徳 永、福 西、森、長 尾、  
澤 田、荻 山、田 村、加賀本、波 島、小 平、佐久間、梁 井、田 邊、上 林、  
小佐野、田 中、児 玉、野 坂、北 村、岡田(健)、小林(健)、柴 田、小山(健)、植 田 各会員  
国際ロータリー第2780地区 地区ロータリー財団委員会副委員長 柚木裕子様、  
ようこそ横須賀ロータリークラブへお越しくださいました。ロータリー財団の補助金事  
業について貴重なお話が聞けることを大変楽しみにしております。本日はよろしくお願  
ひいたします。

・三 役 本日の情報集会宜しくお願ひいたします。

・小林(一)、杉 浦、八 木、小山(健)、植 田、角 井 各会員

本日の情報集会では「ロータリー財団の補助金事業を考える」というテーマでグループ  
ディスカッションが行われます。充実した議論になるように各グループ積極的な意見  
を出し合ひましょう。

・三役、岡田(健)AG ポリオ根絶「夢の音楽祭」皆様お疲れ様でした。

・石 田、高 橋、権 田、鈴木(豊)、加藤(健)、波 島、萩 原、

木 村、江 口、竹 株、臼 井、植 田 各海員

11月5日(日)に「ポリオ根絶募金活動」が行われます。ポリオ根絶まであと一步のと  
ころまで来ています。是非多くの募金を集めるとともに、市民の皆さんにロータリーク  
ラブのことをアピールしましょう！みなさまロータリーキャップをお忘れなく！

<閉会・点鐘> 18:15 藤村 会長

**【情報集会】** 18:20 テーマ：ロータリー財団の補助金事業を考える

<情報集会進行説明> R財団補助金プロジェクト委員会担当理事 植田 威 会員



<ロータリー財団について> ロータリー財団委員会委員長 Enora Rogers 会員

<講演>

公益財団法人 ロータリー米山記念奨学会  
事務局長 柚木裕子様

こんばんは。地区ロータリー財団委員会副委員長の柚木裕子(ゆのき・ひろこ)です。

まず、ロータリー財団の歴史をお話しします。アーチ C. クランフ氏が基金の設立を提案したのは1917(大正6)年で、ロータリー財団と命名されたのは1928(昭和3)年です。最初に行ったプログラムが財団奨学金制度でした。日本も1950(昭和25)年に第1期生が生まれ、第2期生には難民高等弁務官を務めた緒方貞子さんがいました。1965(昭和40)年、助成先の団体が調達した資金に対し、あらかじめ決めた一定比率で助成金を提供する仕組みであるマッチング・グラントが開始されました。1979(昭和54)年、ポリオへの取り組みを開始し、1985(昭和60)年、ポリオ・プラス・プログラムが創設され、1992(平成4)年にはシェア・システムが導入されました。1999(平成11)年、平和センタープログラムが創設されました。ロータリー平和センターは、平和構築と紛争解決に貢献する人材を育成するため、各センターで独自のカリキュラムを提供していて、現在最も必要な分野です。2013(平成25)年に未来の夢計画新補助金制度ができました。この導入によって、地区補助金は新地区補助金となり、分配率と使用内容が変わり、地区で使用できる補助金は大幅に増えました。人道的プロジェクト、奨学金、職業研修といった従来からの主な奉仕の機会が残される一方、この新モデルによりプログラムが簡素化され、クラブと地区がより持続可能性の高いプロジェクトを実施できるようになりました。その後、大規模プログラム補助金も始まり、「世界でよいことをするための」という基金設置提案によりロータリー財団は誕生し、国際ロータリーの理念の下に財団支援者の寄付で支えられ、国際ロータリーの目的を推進するための単独の信託機関として、全資産を維持、管理、運営をしています。職業人と地域社会のリーダーのネットワークを通じ



て人々に奉仕し、高潔さを奨励し、これを推進するために寄付を集め、運営することがロータリー財団の仕事です。そして、ロータリアンが人々の健康状態を改善し、質の高い教育を提供し、環境保護に取り組み、貧困をなくすことを通じて世界理解、親善、平和を推進することが必要であり、7つの重点分野(平和の推進、疾病との闘い、水と衛生、母子の健康、教育の支援、地元経済の成長、環境の保護)を網羅しています。これを支えているのが4人のパスト会長と11人の委員で構成され、ロータリー財団の決定機関となっている財団管理委員会です。小澤一彦様は財団管理委員を務められています。

寄付するとき、寄付にはどのような種類があり、どのように使われているかを考えていただきたいと思います。年次寄付とは、3年後に地区に戻ってくるDDF(地区財団活動資金)とWF(国際財団活動資金)とに分かれる寄付です。年次基金でも、WFにだけに寄付したいという人はそちらを選ぶことができますし、7つの重点分野の中のこれに寄付したいという人はそこに寄付することができます。恒久基金は現金が支出されることはなく、収益の一部がシェアやWFであったり、ロータリー平和センター重点分野などへの使用が可能になっています。ポリオプラスは、ポリオ予防接種を行うために使われます。ビル&メリнда・ゲイツ財団が2倍の上乗せをしてくれるので、ポリオ根絶運動にとっては大変ありがたいことです。その他の基金として承認されたグローバル補助金も寄付の種類になっています。世界中で起きている災害に対して、災害救援基金が新しくできました。

- 2780地区のDDFについて説明します。2020年から21年度の寄付の年次寄付は411,125.85ドルでした。恒久基金に多く寄付されれば、その収益は積み立てられ、次第に増えていくので、やり方としてはいいと思いますが、前年度の財団の繰越金はグローバルにしか使えませんので、地区補助金も予定しているのであればできるだけ配分することを考えなければなりません。余った補助金は次年度のグローバルのほうに積み立てられるという結果になっています。地区補助金としては、7つの重点分野に限定されない芸術、文学、経営・経済などの分野の人たちのために1人分の奨学金を確保しています。グローバルの補助金で多くのプロジェクトをしていくほうが、寄付したお金のほとんどが還元される結果になります。グローバルの補助金も地区補助金もどちらもプロジェクトや奨学金、VTTに相当する以前のGSE(研究グループ交換プログラム)というものがどちらにもあります。グローバルの補助金でも地区補助金でも使えるので、使い方を考えればいいという観点です。グローバル補助金でプロジェクトを行うときは、持続可能で測定可能な成果をもたらす大規模な国際的活動の支援に使うこと、例えばグローバルの奨学金でしたら大学院レベルの奨学生に使うことができます。VTTは、専門職業に関係する研修を提供するチームや、研修を受けるチームを海外に派遣したりすることに使えます。グローバルに関しては最低の予算が3万ドルですから、これ以上のプロジェクトにすることとDDFの拠出に対してWFからDDFへ80%の額が上乗せされるので、それも含めて予算を組むことも必要です。7つの重点分野に属することなど様々な条件があります。地区補助金のためのプロジェクトは、地元や海外の地域社会のニーズに取り組むための比較的規模の小さい短期的な活動を支援します。1年間でやり遂げ、結果や報告書を出すものでないと補助金は交付されません。奨学金の場合は、教育機関のレベルや場所、支給期間、専攻分野の制約がないので、国際親善学生と同じ形で募集していますが、地区によっては生活に困った人を助けたいので、その奨学金を出したいという希望もあります。大学だけでなく高校というレベルもあります。以前、高校生への奨学金を地区として補助しようという話がありました。所得の低い家庭の子とか、生活が大変な家庭の子への奨学金という感覚で選ぶことは非常に難しいことから、取りやめとなってしまいました。職業研修チームの派遣も地区補助金を使って行うことができます。青少年のプログラムにも地区補助金は使えることになっていて、インターアクトで使ったらどうかという話が出ています。これは地区サイドで決めていくことです。

世界平和と開発の担い手となる人材を育て、平和推進者の世界的ネットワークを築くことを目的とするロータリー平和フェローシップでは、平和フェローシップ修士号取得プログラムでは、7大学と提携して6つのロータリー平和センターが運営されています。日本では国際基督教大学がこの役目を担っています。専門能力開発修了証プログラムはウガンダのマケレレ大学1校になりました。アフリカ出身、アフリカでの仕事経験、アフリカの地域社会での活動経験などの制限があります。

グローバル補助金は、7つの重点分野に該当し、持続可能かつ測定可能な成果をもたらす大規模な国際的活動を支援します。クラブと地区は、グローバル補助金を通じて地域社会のニーズに対応する活動を行うことで、グローバルなパートナーシップを強化できます。最低3万ドル以上の、人道的プロジェクト、大学院

レベルの留学、VTTに申請できます。資金調達としては、DDFに対してWFが80%上乘せされます。これも上限額が40万ドルとなっていて7つの重点分野パートナーシップが必要です。1つのクラブだけで行うことは大変なので、賛同するクラブや内外を問わず賛成するクラブと共同して行うことが、海外ではよく見られます。地区補助金は、地域社会のニーズに応えるプログラムで、どの活動に活用するかは地区が決定します。地区がまとめてRIのロータリー財団へ申請します。地区とクラブは、地域社会や海外のニーズに取り組むことができます。人々の生活を改善する活動である人道的なプロジェクトや、あるいは奨学金やGSEなど、青少年プログラムの中にも使うことができます。

うまくいく実例と失敗する実例について話をしてほしいという依頼がありました。皆さんは何が成功の秘訣だと思いますか。また、何が元で失敗すると思いますか。大切なことは、きちんとニーズを調査すること。海外の場合は、パートナーに信頼できる人物がいること。見積もりをしっかりと取り、予算を立てて金銭的にしっかりと管理できていること。事業を視察に行くこと。持続可能性を保持すること。終了後のメンテナンスができる地元での態勢づくりをして、終了後もプロジェクトができていることを確認すること。多くの人に利益が行くように社会生活の改善ができること。これらをきちんと考え、必要な手続きをすれば問題はありません。実際にVTTとして口唇口蓋裂治療を有効に機能させている横須賀ロータリークラブでは、それらがしっかりとできていたからだと思います。ご清聴ありがとうございました。

- 18:50 グループ熟議 「ロータリー財団の補助金事業を考える」
- 19:20 ファシリテータによるグループ発表
- 19:25 講評 ロータリー情報・研修委員会 委員長 田邊 一三 会員

## 《 懇 親 会 》

<乾 杯> 19:30 上 林 茂 会員

<閉 会> 20:30 高 橋 隆 一 副会長

週報担当 大 石 朗